

【地域の概要】

- 本村の中で最も高齢化率が高く限界集落化している地域
- 本村中心部から約15km離れた富山県境に位置している
- 本地域の圃場の多くが荒廃化している
- 本地域における人・農地プランに位置付けられた担い手2名（法人1社、個人1名）

①取組開始前の状況や課題

農家の後継ぎ・担い手の不足

- 急峻な山間の庄川流域沿いに4つの小集落が点在。1つの集落戸数は数戸程度で後継ぎ不在の農家が大半を占める。
- 本地域内には担い手がいないため、人・農地プランでは他地区の担い手に割り当てているが、距離的要件から積極的な引受は見込めない状況である。

荒廃化する農地

- 一部の比較的好条件の農地は担い手が引き受けているが、大半の農地は引き受けされず、荒廃化が進んでいる。
- 山林原野化し荒廃が進んだ農地を復旧したとしても、耕作を再開することはまったく見込めない状況である。

②取組内容

非農地判断が必要な農地情報

の整理と共有（令和4年6月）

- 事務局にて非農地判断が必要と思われる農地について情報を整理し、総会開催時に全農業委員と共有した。

現地確認の実施（令和4年8月）

- 農業委員8名、事務局員2名にて1筆ずつ現地調査を実施し、現況を確認した。
- 現地確認した情報を再度整理し、11月開催の総会にて協議。調査した全筆を「非農地」と判断し、12月に非農地通知書を発出。



現地確認の様子

令和4年度非農地判断実績

・筆数・・・103筆 ・面積・・・33,422㎡ ・所有者数・・・24名

③今後の展開と方向性

積極的な非農地判断の実施

- 毎年100筆程度の非農地判断・非農地通知書の発出を行い、農地台帳の精査及び守るべき農地の明確化並びに不要な土地利用規制の回避を図りたい。